

令和4年度 第6回庄内地区「子どもの声を聞く会」 発表者

学 校 名	氏 名	題 名
庄内小学校 6年	中野 くるみ (なかの くるみ)	「庄内ドリーム」
菓子野小学校 6年	前田 結秋 (まえだ ゆあ)	庄内地区の素敵な合言葉
乙房小学校 6年	後藤 みずき (ごとう みずき)	人と人がつながる乙房町
庄内中学校 1年	外山 瑠菜 (とやま るな)	「庄内町の魅力」
庄内中学校 2年	松浦 茜 (まつうら あかね)	良さであふれる庄内地区

「庄内ドリーム」

都城市立庄内小学校 6年 中野 くるみ

私は、修学旅行で鹿児島に行きました。修学旅行はとても楽しくて、何日も続いてほしかったのですが、帰りのバスで庄内の見慣れた景色が見えたとき、なんだかほっとしました。1日ぐらいしか離れていなかったのに、なんだかなつかしい気分になりました。ほっとするということは、私にとって庄内が かけがえのないふるさとになっているからだと思います。私のように、庄内をすてきなふるさとだと思える人が増えてほしいと思います。そこで、 2つ提案をしたいと思います。

1つ目に、「イベントの開催」を提案します。庄内の大通りには、閉まっている店が多く、生かすことができていません。市のイベントは多いですが、庄内独自のイベントは少ない気がします。イベントを通して、様々な年齢層の人々と接する機会をつくりたいと考えます。会うことが難しい同じ年齢層の人とも交流をしたいです。そこで、私が考えたのが、「庄内大運動会の復活」です。コロナの関係で、今は難しいと思いますが、コロナがなくなったら復活してみてもいいでしょうか。場所は、庄内市民広場です。なぜ、運動会かという年齢にあった種目やルールを工夫すれば、誰でも参加できて楽しめると思ったからです。コロナでご近所づきあいを遠慮していましたが、運動会を機に復活もできると思います。また、団結して楽しむことで庄内のきずなを深められると思います。そこで、顔を知ること、道で会った時にあいさつができたり話ができたりすると思います。知らないからあいさつをためらってしまうことが、知ることによって進んであいさつができる。笑顔があふれる、庄内になると考えます。

2つ目に、「町内一斉ボランティア」です。 ボランティアの中でも、まずは「清掃」から始めたらいいと思います。その理由は朝、学校でボランティアをしていると、ペットボトルやお菓子の袋、たばこの吸い殻などがよく落ちています。それを見て、友達と「どうしてポイ捨てをする人がいるんだろうね。」と話をします。学校に来る途中に、ごみが落ちているのを見ることもあります。朝からなんだかいやな気分になります。現在、地区ごとに清掃をしているところもありますが、全ての地区ではないと思います。庄内一斉ボランティアの日を決め、全員で実施すること

で、同じ日・同じ時間に庄内全員の人が庄内のためにがんばったという達成感も生まれると思います。さらに、自分たちで掃除をした場所を汚したいと思う人はいないと思います。反対に、きれいに使おうという意識が芽生えるのではないかと考えます。まずは、1年に1回から始めてはどうでしょうか。

この2つの提案を実行することによって、この庄内をほこりに思い、ふるさとを大事する人が増えるといいと思います。

## 庄内地区の素敵な合言葉

都城市立菓子野小学校 6年 前田 結秋

皆さんは庄内地区の合言葉を知っていますか。「明るい挨拶・ありがとう・人が喜ぶこと」という3つの言葉です。私は、この合言葉が大好きです。それでは、この合言葉をもとに庄内地区の良さを述べたいと思います。

まず、「明るい挨拶」についてです。

庄内地区の自慢の1つは挨拶がいいところだと思います。登下校中、知らない人が私に優しい笑顔で挨拶をしてくれることがあります。逆に知らない人に挨拶をすると笑顔で元気よく返してくれます。知らない人だと恥ずかしい気持ちになりますが、勇気を出すと挨拶を返してくれるのでとてもホッと心が温かくなります。皆さんも挨拶をしたりされたりすると嬉しい気持ちになりませんか。挨拶には心を元気にする力があります。お互いに挨拶をし合うことで、みんなの心が元気になり、庄内地区も元気な町になっているのだと思います。

次に「ありがとう」についてです。

「ありがとう」という言葉は、言われるととても嬉しい言葉です。私のクラスでは「ありがとう」があふれ、みんなの笑顔が増えています。例えば困っている時に、誰かに教えてもらったり手伝ってもらったりしたら「ありがとう」と伝えます。「ありがとう」の言葉が私たちの絆を強くしているような気がします。また学校では、米作り・俵踊り・持久走大会の見守り・立ち当番・いも苗植えなどたくさんの方のことで地域の皆さんにお世話になっています。丁寧に教えてくださったり応援して下さったりします。そのおかげで、私達は貴重な体験ができ、たくさんの方を学ぶことができます。そして私は、いつも私達を支えてくださる地域の皆さんに「ありがとう」の感謝の気持ちでいっぱいです。地域の皆さんはいろいろなことを通して、私達に「ありがとう」の気持ちも教えてくださっているのだと思います。

最後に「人が喜ぶこと」についてです。

人の気持ちを考えると人が喜ぶことにつながります。人が喜ぶことをすることは簡単なように見えて難しいこともあります。私は相手の気持ちを考えることが十分にできず、友達とけんかをしてしまったことがあります。「なんであんなことを言ったのだろう」と後悔しました。それから相手はどんな気持ちなのか考えることを心がけていますが、失敗してしまうこともあります。菓子野小学校には『心のプレゼント週間』があります。「人が喜ぶこと」をしている友達がいたら紙に書いてみんなに紹介する週間です。その紙の内容を見ると、みんなの優しさがぎゅっとつまっていて、私もたくさん人が喜ぶことをしてみんなの役に立ちたいという気持ちになります。このように3つの合言葉をもとに行動しているので、素晴らしい庄内の町がつけられているので

はないかと思います。私はこんなふうに大切な心を教えてくれたこの庄内の町にいつか私ができることで恩返しがしたいです。

私の夢は医者になることです。医者になりたいと思ったきっかけはユニセフのCMや動画などでした。小さな子ども達にご飯を食べられず苦しんだり亡くなったりしているのを知り、心がすごく痛くなりました。自分に何かできることはないかと考えるようになりました。そして、医者になって生まれてきた命を守りたいという気持ちになりました。またマザーテレサやナイチンゲールなど、昔医療で活躍した方達に憧れたからです。この夢を叶えるために今私ができることの1つは勉強です。人の何倍も努力しようと思います。分からないことは積極的に聞いて苦手なところは克服できるようにしたいです。また時間を効率的に使って充実した勉強ができるようにしたいです。2つ目は「気づき、考え、行動する」ことを進んでやることです。医者は患者と向き合いながら行う仕事です。だから、人の心を大切にすることを、常に考え行動することを心がけていく立派な医者になりたいです。そして、いつか庄内に帰ってきて医者として働きたいです。

## 人と人がつながる乙房町

都城市立乙房小学校 6年 後藤 みずき

吉都線を走るななつ星に「ようこそ乙房へ！」と歓迎の気持ちをこめて大きく手をふりました。

令和4年は、乙房小学校北校舎解体や乙房インター開通、「ななつ星 in 九州」が吉都線を走行開始するなど、乙房にとって歴史的な1年となりました。それぞれのイベントに参加し、乙房は人と人が繋がっている町だと強く感じることができました。そして、この繋がりを大切にし、次へ紡いでいくために、私達にできることは何か考えました。

まず、人と人の繋がりを強く感じた出来事を紹介します。

1つ目は乙房小の解体が始まるときのことです。私の父、祖母、そして曾祖母も乙房小を卒業しました。北校舎が解体される前に、たくさんの卒業生が来校しました。父も祖母も乙房小を見学して、「懐かしいね。」や「小学生の頃を思い出すな。」と言っていました。その言葉を聞いて、私が毎日通った正門や学びあった教室は、お父さんたちにとっても大切な場所だと気付きました。そして、その思い出を今も大切にしている人達がたくさんいることに、うれしく思いました。

2つ目は、クルーズトレインななつ星の吉都線走行が始まったときのことです。乙房地区全体で、ななつ星を盛大に歓迎しました。ななつ星に乗っているお客さんたちに、「乙房ってすてきな町だな。」と思ってもらえるように、乙房小の5・6年生みんなで、大きく手を振りました。私はそれ以外にも、スポーツ少年団「乙房ボンバーズ」の一員として、ななつ星歓迎のイベントに参加しました。そのときも、乙房を盛り上げようと、たくさんの地域の方が集まりました。ななつ星に乗っている人達も笑顔で手を振り返してくれました。ななつ星の車窓からたくさんの笑顔が見えたとき、人と人が繋がったと感じました。まったく知らない人同士が、笑顔で手を振り合うなんて…こんな素敵で平和な時間を感じられたことに感動しました。この感動は、乙房を思う人の心と、たくさんの人達の協力があったからこそです。

これらの体験から、乙房はたくさんの人から愛され、人と人が繋がる町だと実感しました。この繋がりを大切にし、紡いでいくために私たちにできることは、「町を思い、行動すること」だと考えます。私たちの地域の先輩方やまちづくり協議会の方々は、学校行事に快く参加してくださ

ったり、町おこしイベントを企画したりと、乙房のために積極的に行動してくださっています。そのおかげで人と人が繋がり、笑顔がうまれます。人と人がふれあう場所が増えれば増えるほど、繋がりもより広く、強くなっていきます。みなさんも、学校や地域の行事に参加し、繋がりやの輪を広げてみませんか？そしてみんなで笑顔あふれる乙房にしましょう。人と人が繋がる町乙房へ！

## 「庄内町の魅力」

都城市立庄内中学校 1年 外山 瑠菜

「庄内町の魅力」と言われて、皆さんは何を思い浮かべますか。私が住んでいて思うことは、「豊かな自然や、数多くある貴重な歴史的建造物」と「地域の人々との明るいコミュニケーション」です。

まず、庄内町にある「豊かな自然や、数多くある貴重な歴史的建造物」についてです。庄内町には、関之尾の滝などの美しい自然や、願心寺などの歴史的建造物が数多くあります。このような庄内町の魅力は、「庄内地区まちづくり協議会」や「庄内を語る会」の方々が、今でも子どもたちに伝えてくださっています。しかし最近、庄内町でよくゴミを見かけます。美しい自然や建造物の前にゴミが捨ててあったり、通学路に捨てられていたり、あらゆるところにゴミが捨てられていると感じます。ゴミがあると、美しい庄内町の景観をそこなうこととなります。また、ゴミが川などに流れだすと、豊かな自然を失うことにもつながり、悪いことだらけです。この美しい庄内町の自然を守るためにも、一人一人がゴミを捨てないことを意識することが大切だと思います。例えば、いつも通る道も、意識してみるとゴミがたくさん落ちていることに気づきます。自分から、ゴミを見かけたら拾うことを意識することで、庄内町の豊かな自然や、歴史的建造物を守っていけると思います。

次に、「地域の人々との明るいコミュニケーション」についてです。朝、登校中に「おはようございます」と挨拶をすると、「おはようございます」や「いってらっしゃい」、「頑張ってるね」など、とても優しい言葉をかけてもらえて、一日のやる気がでてきます。しかし、最近は、新型コロナウイルスの影響で、地域の方々とのコミュニケーションの機会が減ってきています。また、自分から挨拶をしない生徒も見かけるようになりました。地域の人々とコミュニケーションをとる事は、その土地に住むには大事な事です。新型コロナウイルスの影響で地域の人々との交流が減ってきている今でも、「挨拶」はできます。「挨拶」をせずに通り過ぎる人にも、自分から挨拶を試みてはどうですか。「おはようございます」や「こんにちは」と声をかけるだけでも、小さなコミュニケーションではないでしょうか。小さなことから、庄内町を明るくしていけると思います。

この魅力あふれる庄内町をもっと良い町にするには、私たちの普段の生活の中で少し意識を変えるだけでよいと思います。「このままでいい」、「誰かがやってくれる」ではなく、まず、自分から動くことが大事だと思います。自分ができることを、少しずつやっていくことが大切です。まずは、小さなことを一人一人、意識することからはじめて、庄内町を魅力あふれる町にしていきたいと思います。

## 良さであふれる庄内地区

都城市立庄内中学校 2年 松浦 茜

みなさんは自分たちの町の良さについて考えたことはありますか。私自身、この作文を書くまで庄内町の良さを考えたことはありませんでした。しかし、実際に考えてみると私たちの町には良さがたくさんありました。その中でも、「地域の人々の仲の良さ」と「歴史や伝統文化」の二つについて述べようと思います。

まず、「地域の人々の仲の良さ」についてです。庄内中では、挨拶の活性化を目指し「GETJ」という活動を行っています。「G」＝元気よく。「E」＝笑顔で。「T」＝立ち止まって。「J」＝自分から。という目標をもって日々生活をしているので、登校中や下校中に地域の方々に挨拶をすることがよくあると思います。地域の方々は、挨拶を返してくれるだけでなく、「おかえり」や「気を付けて行ってね」など優しい言葉をかけてくださいます。また、私の友達は、困っている時に声をかけてもらい、助けてもらった経験を教えてくれた人もいます。この話を聞いたとき、とても心が温かくなりました。困った時には助け合い、支えあえるそんなつながりがあるところが、自分たちの町の良さだと思います。

次に、「歴史や伝統文化」についてです。私が卒業した庄内小学校では、「南州太鼓」、「熊襲踊り」、「水道音頭」や「水戸踊り」という伝統文化が受け継がれています。新型コロナウイルスが流行する前は、伝統文化について、実際に体験する機会があり、詳しく学ぶことができました。私が、先ほど挙げたような伝統文化を知ったきっかけは、先輩方が紹介してくれたことがきっかけです。このことから、庄内地区では古くからの歴史が受け継がれていったのだと感じました。都城市全体で、歴史を大切にするために、一年に一度、都城市内の各地区の伝統文化について紹介しあう機会を作ると良いと思います。自分たちの町の歴史について知ることもでき、伝統文化を紹介しあうことで、他の地区の歴史も知ることができると思います。

庄内町にはこのように良いところがたくさんありますが、改善しないといけない点もあると思います。それは、マナーを守れていない人がいる点です。私は、登下校中や、散歩をしている途中に、よくペットボトルやビニール袋のゴミを見かけます。このことは、日本全体でも大きな問題になっています。例えば、私たち人間が捨てたゴミが海に流れてしまうと、海の中で生活している生き物に影響がでてしまいます。また、とある記事によると、2050年の海は、魚よりもゴミの方が多くなってしまうそうです。今は、コロナ禍で地域全体でのゴミ拾いなどの活動などできない中ではありますが、一人一人がゴミの量を少しでも減らす意識をもてるような活動をしていきたいです。例えば、「ポスターを作る」、「市の広報で呼びかける」、「各小学校区や地区でゴミ拾いをする」などの活動を通して、庄内町をもっと良い町にしていきたいです。

先ほど述べたように、庄内町には良い点も改善点もあります。私は庄内町が良い点であふれる町になるように、改善点はしっかりと改善していけるといいと思います。そして、この発表を通して、少しでも多くの方が庄内町の魅力についてきっかけを作れるように、これからも庄内町の良さを伝えていきたいです。